

日赤栃木県支部JRCメンバーが岩手県陸前高田市で瓦礫の撤去を行う

平成23年7月28日（木）岩手県陸前高田市気仙町において、栃木県青少年赤十字高等学校連絡協議会の役員校のメンバーら29名による瓦礫撤去のボランティア活動を行いました。今回の活動は栃木県青少年赤十字高等学校連絡協議会の役員会において被災地で自分たちでもできるボランティアがしたいといった意見から実現に至りました。

当日は、午前、午後の約3時間半、メンバーを6班に分け、一般の人たちと一緒に活動しました。

活動内容は瓦礫の撤去でした。思い出の品、割れてしまった瓦の破片、粉々に砕けた食器類、ガラスの破片、本や段ボール等のベッタリとした紙類、衣類。それぞれを分別し、作業場所には分別された瓦礫の山がいくつもできました。

メンバーは一般の参加した人たちとコミュニケーションをとりながら、無心になってボランティア活動に励みました。

メンバーからは「ボランティアの大切さを痛感した。直接被災地で活動することにより今の現状を知ることができ、映像では感じることができない怖さやすごさを体験することができた。」「外国人の人たちもボランティア活動に参加しており、海外の人も日本を応援してくれていると思うとうれしくなった。」等の感想をもらいました。

また、現地のボランティアリーダーから「被災された方はゴールの見えないマラソン走者。ボランティアはゴールにたどり着けるよう寄り添う伴走者である。」という言葉が印象に残り、参加したメンバー、指導者の胸に深く刻まれました。

前日の夜出発という強行軍での活動でありましたが、体調を崩すメンバーもなく、みな元気に帰ることができました。参加したメンバーにとってはこの場所で、このメンバーで活動できたことは二度とない経験として、一生の思い出となることでしょう。

